平成 22 年度「中城御殿跡」現地説明会資料

平成 23 年 1 月 15 日（土）
沖縄県立埋蔵文化財センター

1．はじめに

沖縄県立埋蔵文化財センターでは、平成 19（2007）年度から「中城御殿跡」の発掘調査を実施しています。今回の調査は、建物跡などの範囲・状態を確認する遺構確認調査として行われており、この調査成果は県立博物館跡地の今後の利活用をはかるための基礎資料となります。

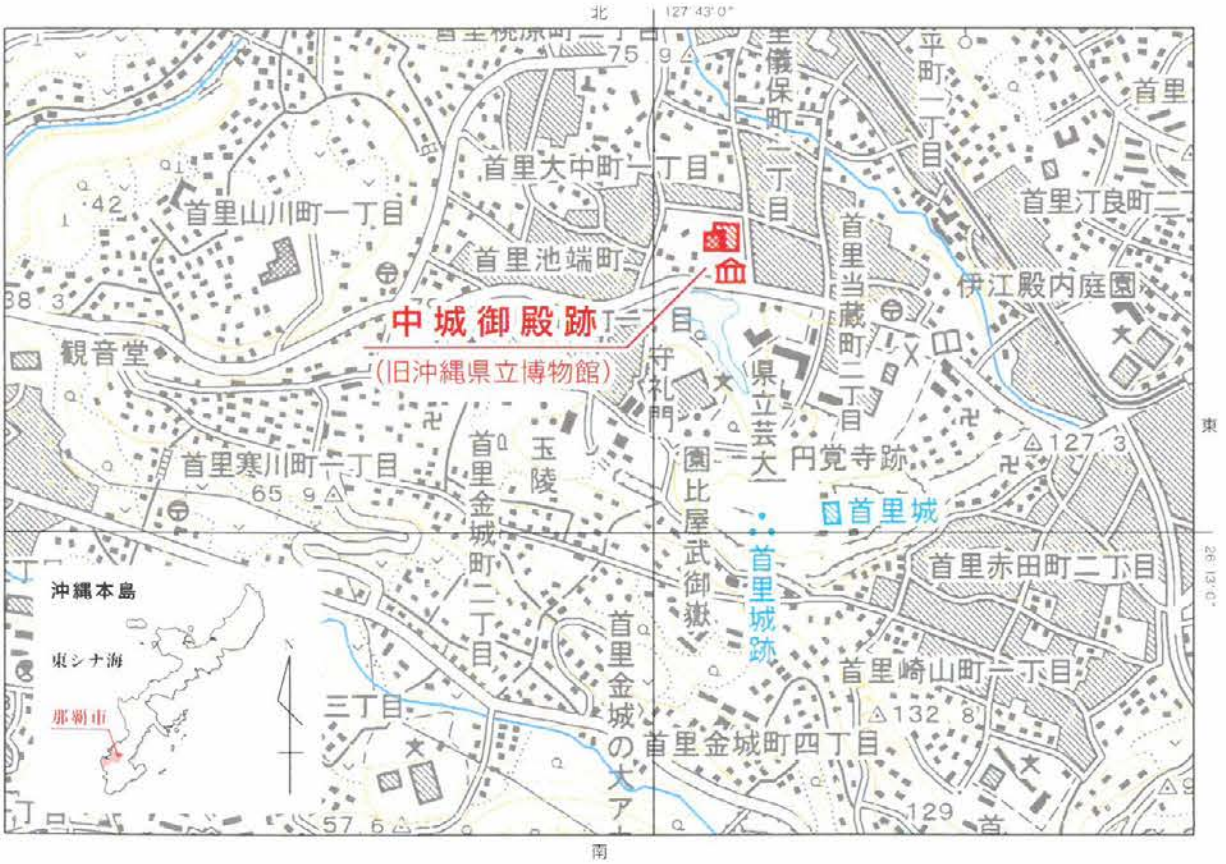
2．調査の概要

- 遺 跡 名：中城御殿跡
- 所 在 地：那覇市首里大中町 1 丁目 1 番地
- 調査目的：遺構の範囲確認調査
- 調査面積：約 400 ㎡
- 調査期間：平成 22 年 8 月～平成 23 年 1 月

3．中城御殿とは

中城御殿は、次の琉球国王となる世子が暮らした邸宅跡を指します。名称の由来は、王子が王世子（王位継承者）になると、領地として中城間切及び知行を下賜され、中城王子あるいは中城御殿と称されたことによります。当初その建物は、17 世紀前半に現首里高等学校敷地内（現首里真和志町）に創建され、王府の別邸である大美御殿の東面に位置したことから東宮とも呼ばれました。その後、中城御殿は 1870（明治 3）年に現在の首里大中町に移転します。

今回の現地説明会の対象となるのは、移転後の中城御殿です。



第 1 図　中城御殿の位置

4．調査の成果（中間報告）

本年度の調査では、４本のトレンチ（溝）掘りによる遺構確認調査を実施しました。これらの成果はん今後詳細な資料整理作業によりまとめられますが、ここでは中間報告として、現時点で判明している成果をトレンチごとに報告します。

トレンチ１

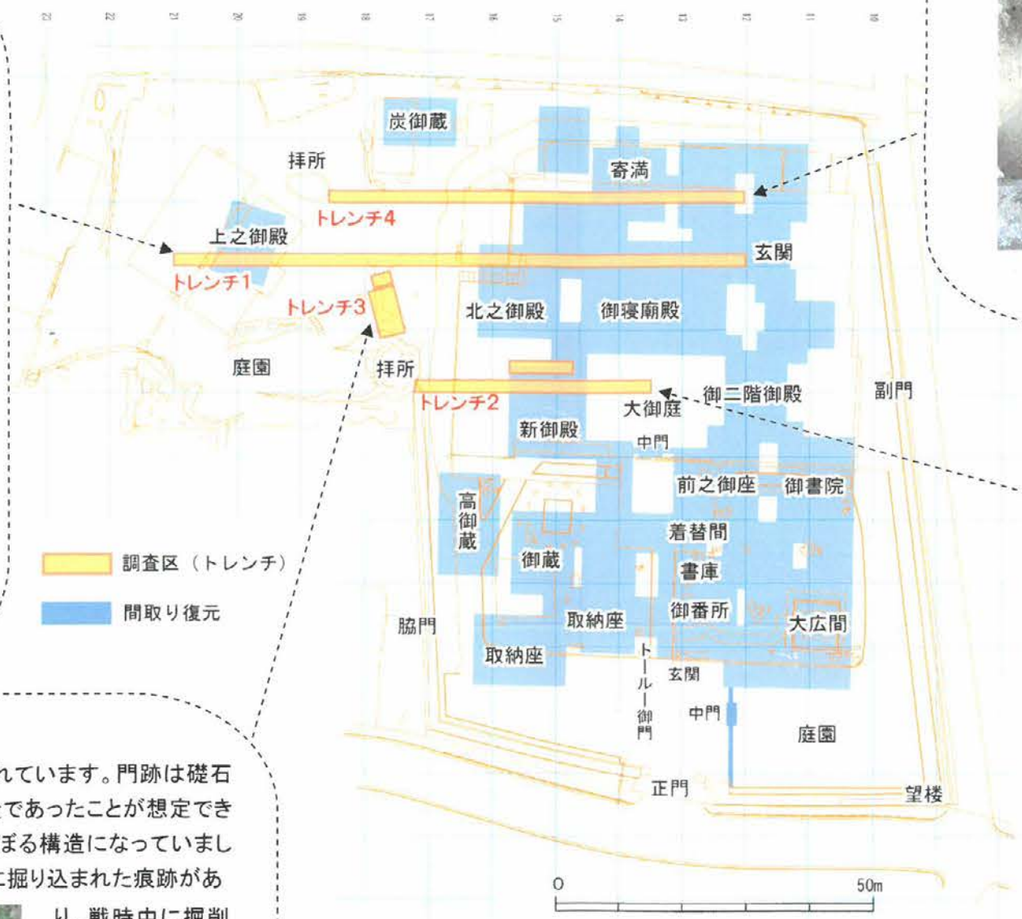
御寝廟殿や北之御殿と上之御殿の一角にあたります。検出された遺構は、御寝廟殿の地下に存在していた方形石組み遺構と、御内原と上之御殿を仕切る石積みの跡です。遺物は、表土や撹乱層から、沖縄産陶器や戦時中に岐阜県や佐賀県で焼かれた統制陶器・軍用食器が多数得られています。

石積み１

トレンチ３

御内原と上之御殿を出入りする門と階段が検出されています。門跡は礎石が4ヶ所にあることから4本柱で、扉は東側に開く構造であったことが想定できます。門をくぐると、踊場から右（北）へ階段を9段のぼる構造になっていました。この踊場の石畳と西側の壁面石積みには人為的に掘り込まれた痕跡があり、戦時中に掘削されたことが考えられます。出土遺物は戦後の物がほとんどですが、沖縄産のカラカラや小杯・小碗などが出土しています。

石門・石階段検出状況



第２図　中城御殿トレンチ配置・間取り復元図

トレンチ４

中城御殿の台所である寄満が存在していた箇所から、上之御殿の拝所が存在していた付近までトレンチを設けました。遺構は建物周辺や床下に存在していた側溝や暗渠のほか、御内原と上之御殿の境界となる石積みの根石や、拝所であった大岩の付近から中城御殿以前の遺構と思われる石畳なども検出されています。出土遺物は沖縄産陶器が中心で新御殿付近の遺物と様相が異なります。

石積み・暗渠検出状況

トレンチ２

新御殿と大御庭、浮き道が存在した付近にあたります。遺構は新御殿のものと思われる石畳や側溝・暗渠跡、トイレ跡のほか、大御庭の砂利敷きの層などが検出されています。遺物は肥前や瀬戸美濃産の色絵や染付が多数出土しているほか、青磁の便器と思われる衛生陶器も出土しており、中城王子の優雅な生活を偲ばせています。また、暗渠の中から戦時中に避難させたと思われる位牌が見つかっています。

石畳・トイレ遺構検出状況

出土した位牌

5．まとめ

以上、平成 22 年度中城御殿跡発掘調査の中間報告を行いました。今回の調査において、御内原地区では新御殿、御寝廟殿、寄満や、これらの建物に付随する遺構を確認しました。また、この御内原地区と上之御殿地区の境界にあたる石積みや、出入り口となる石門・石階段のほか、拝所として使用していた大岩の周辺からは、拝所の遺構の可能性がある石列や、その下部からは中城御殿以前と思われる石畳や石積みが検出されています。これにより、中城御殿の遺構は戦中・戦後に大きく改変を受け、一部は破壊されているものの良好な状態で残されていることがわかりました。

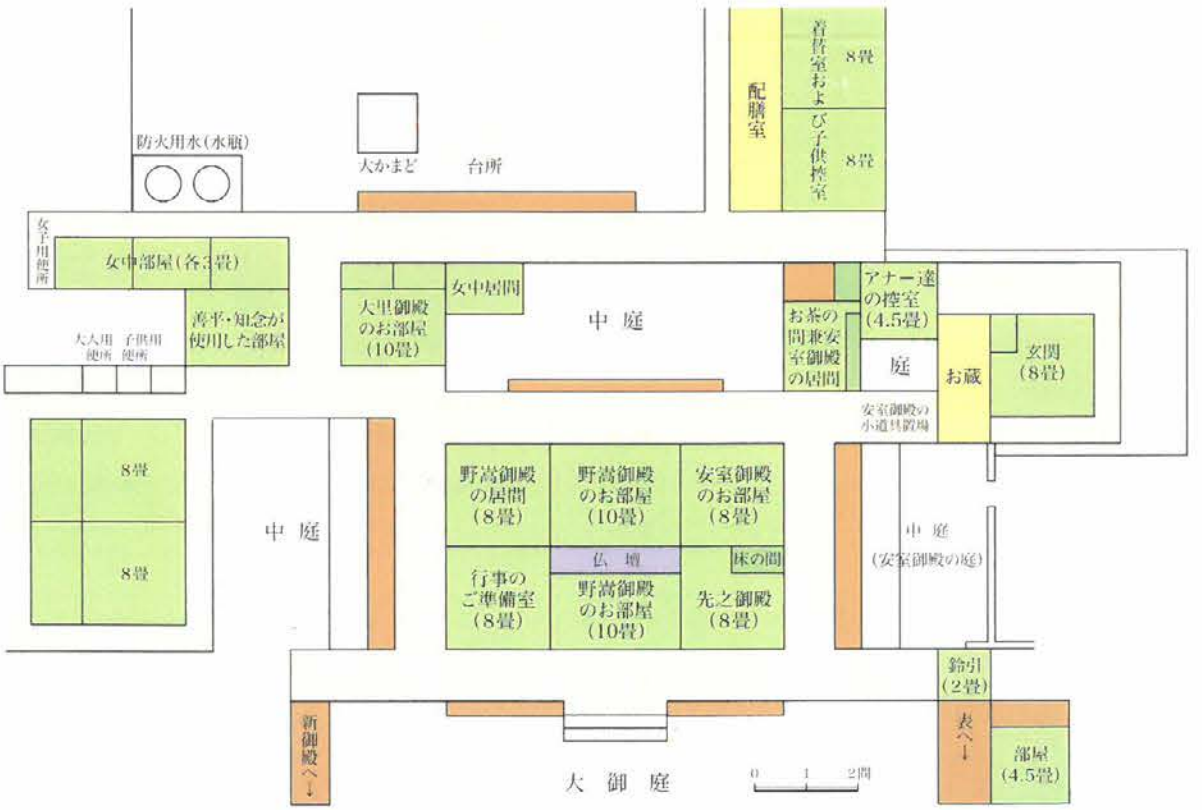
また、出土遺物に関しても、王子が暮らした新御殿付近とその北側とでは大きく種別が異なることがわかり、建物の用途により、使用していた器物や上下関係が存在していた可能性を示しています。

これらの成果は、今後埋蔵文化財センターへ持ち帰り、図化・トレース・写真撮影・集計などの整理作業のほか、自然科学分析などを行い、調査報告書としてまとめられることになります。

参考資料

第１表　中城御殿跡関連年表

西　暦	元　号	事　項
1621～40	尚豊王代	尚豊王代　中城御殿が現県立首里高校の地に建設される
1870年	尚泰23/明治3年	中城御殿が龍潭北側に新しく造営されることが決まる
1875年	尚泰28/明治8年	世子・中城王子が新築された屋敷に移る
1879年	尚泰32/明治12年	廃藩置県　首里城を明け渡し尚泰王以下中城御殿に移る
1884年	明治17年	中城御殿ほか21ヶ所の敷地・建物など尚泰の私有財産と確定される
1945年	昭和20年	3月下旬　宝物を3つの大金庫へ移す
		4月6日頃　中城御殿が米軍の砲撃をあびて炎上
		4月8日頃　火災をのがれた御後絵（肖像画）を御嶽岩の後ろに移す
		4月10日頃　日本軍が殿を機関銃陣地にする（上之御殿、防空壕など）
		戦後　一時引き揚げ者のバラックが建つ
1950年	昭和25年	1月　首里市役所が中城御殿跡に移転する
		7月　首里市営バスが営業所を同敷地内に設置する（～66年まで）
1954年	昭和29年	首里市が那覇市に合併され首里市役所が首里支所となる
1965年	昭和40年	琉球政府が敷地購入
1966年	昭和41年	首里支所が当蔵に移転　首里バス（1951年に民営化）が当蔵へ移転
		10月　米国の援助により新敷地に鉄筋コンクリート建の新館を建設 龍潭池畔にあった「琉球政府立博物館」が移転　11月に開館
1972年	昭和47年	5月　日本復帰にともない「沖縄県立博物館」と改称する
1991年	平成3年	県立博物館による石牆部分の第1次発掘調査実施
1992年	平成4年	県立博物館による石牆部分の第2次発掘調査実施
1994年	平成6年	県立博物館による石牆部分の第3次発掘調査実施
2006年	平成18年	3月　沖縄県立博物館が新館移転（おもろまち）のため休館
2007年	平成19年	県立埋蔵文化財センターによる調査開始



第３図　中城御殿「御内原」内主要建物間取り図

〈参考・引用文献〉

沖縄県立博物館 1992『旧中城御殿関係資料集』沖縄県立博物館

海洋博記念公園管理財団 2010『首里城尚家関係者ヒアリング調査業務報告書』海洋博記念公園管理財団